with

東北大学病院
地域医療連携センター通信
［With／ウィズ］

vol.44
2018年2月1日発行

イベント情報
総合防災訓練を実施しました

Event

10月20日に、仙台市内直下・長町-利府断層を震源とする震度6強の地震が発生したことを想定した訓練を、医師・看護師・コメディカルスタッフ・学生等約340名が参加し実施しました。

当院は災害拠点病院である一方で、国立大学法人の大学病院において最多の病床数（1,225床）を有し、外来患者は1日約3000人にものぼります。また東日本大震災という未曾有の災害を経験した総合大学病院として、地震等自然災害への日ごろの備えや対策は地域医療を支える当院にとって重要な責務です。

訓練当日は午後1時の緊急地震速報を合図に、各職員は一斉に担当するエリアに速やかに参集しました。災害対策本部では、病院長を本部長とする本部構成員が病棟会議室に参集し、安全確保後約7分で本部を立ち上げ、その後「アクションカード」と呼ばれる災害時の初動対応を記載したチェックリストに則り、患者・スタッフの安否確認の情報収集、ライフライン等施設被害への対応、及び院内外で発生する様々な事象に対処するシミュレーション対応等が開始されました。多数傷病者受け入れ部門では、チームビルディング後、トリアージエリアの設営や医療資器材の準備、そして傷病者の模擬診療を開始しました。また黒エリアでは、今回新たな試みとして検視を要する事例が多数発生したことを想定し、検視、デンタルチャート（歯科記録）、及び家族対応などの訓練を宮城県警察と協働して行いました。これら院内各エリアで実施された訓練は午後4時頃終了しました。

今後は今回の訓練で明らかになった課題や反省点を踏まえ、当院「災害対策マニュアル」等のブラッシュアップを図るとともに、災害拠点病院指定要件の一部改正に伴った防災・業務継続計画（BCP）の整備もあわせておこない、当院における災害発生時及びそれに備えた平時の体制を更に強化してまいります。

トリアージ訓練

宮城県警察との連携訓練

東北大学病院

専門看護師紹介 / がん看護専門看護師
杉山 育子（すぎやま いくこ）

People

がん看護専門看護師は、がん患者の身体的・精神的な苦痛を理解し、患者さんやその家族に対してQOL（生活の質）の視点に立った水準の高い看護を提供します。宮城県内に10名、そのうち東北大学病院には2名のがん看護専門看護師がおります。院内では他のがん関連の認定看護師とも協力し、院内のがん看護の質向上に向けて活動をしています。

私は、2015年4月から東北大学病院の西15階病棟（腫瘍内科、加齢・老年病科、消化器内科）で勤務し12月にがん看護専門看護師の資格を取得しました。腫瘍内科には、食道癌・胃癌・大腸癌・肉腫等を中心とした固形腫瘍に対する薬物療法や放射線療法を受ける患者さん、疾患の進行や治療によって生じる様々な症状の緩和を目的とした患者さん、終末期を過ごす患者さんなどが入院されています。患者さんの病気のことや家族のことについての不安や気持ちの辛さ、疼痛や呼吸苦などの身体の辛さ、また患者さんを支える家族への支援など、医師や薬剤師、病棟看護師、院内の緩和ケアチームなどと協力し苦痛の緩和に向けて取り組んでいます。

その一方で、国の政策による在宅療養の推進、外来化学療法の増加、在院日数の短縮などにより在宅で療養する患者さんは増加しています。腫瘍内科では、在宅静脈栄養（HPN）を導入し在宅で療養する患者さんも増加しており、昨年から、病棟・外来・地域連携室で連携し在宅静脈栄養（HPN）の指導の標準化と在宅療養における支援体制の整備への取り組みを開始しました。患者さんや家族が望んだ場所で安心して過ごせるよう支援することでQOLの向上に繋がると考えています。病院や在宅など療養場所に関わらず、患者さんとそのご家族が「その人らしく生きること」を実現できるようにこれからも支援していきたいと思います。

お知らせ
ホームページをリニューアルしました

Information

●診療科ページ

診療科ページの構成やサイトのデザインを刷新し、情報の探しやすさ、閲覧のしやすさを向上させました。
各ページをブックマークに登録されている方は、ご変更ください。

●先進医療棟ページ

2018年5月に、先進医療棟に特化した「先進医療棟」をオープンします。各部門の移転による診療制限の実施などは随時お知らせします。

編集後記

2018年が始まって早いもので、ひと月が慌ただしく過ぎ去ってしまいました。年をとるほど時間が経つのが早く感じられることを「ジャネーの法則」というらしいのですが、今まさにそれを実感しております。今年は「戌年」です。実家では猫を飼っていて、犬は飼ったことがありませんが、寒がりの私には、雪の中でも元気に走り回る犬がちょっと羨ましいです。皆様も、体調を崩さず、この寒い冬を乗り切り暖かな春を迎えましょう。（地域医療支援係長 須田 征宏）

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL：022-717-8885 FAX：022-717-8886
Eメール：rmsupport-group@umin.net
ご意見・ご要望は地域医療支援係までお問合せください。

医科診療科紹介

呼吸器外科

Department

呼吸器外科

呼吸器外科は、肺、縦隔、胸壁などの胸部疾患のうち、外科的治療を要するものを診療の対象とする診療科です。当科の年間手術例数を疾患別に見ますと、原発性肺癌が100例程度と最も多く、次いで転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍などとなっています。肺癌は、日本におけるがん死亡の第一位となっており、今後社会の高齢化の進行によりさらに罹患数も死亡数も増えると予想されています。また、東北大学病院は、全国に９つある肺移植施設の一つであり、東北・北海道地区では唯一の施設となっています。日本における脳死下臓器提供数は年々増加してきており、肺移植数も今後増加していくと予想されています。

肺癌に対する外科治療

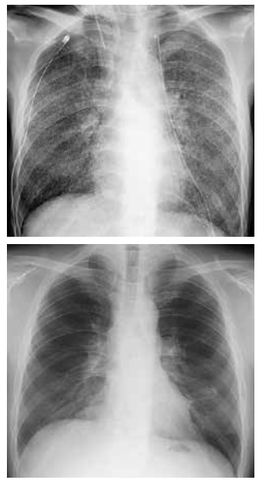
臨床病期Ⅰ期およびⅡ期の原発性肺癌に対しては外科治療が推奨されています。当科では、Ⅰ期ならびにⅡ期症例の一部に対して4cmの皮切で行う完全胸腔鏡下肺切除術（いわゆるcomplete VATS）を適用しています。ある程度進行したケースにおいても、多くの症例で８～10cm程度の皮膚切開で行う胸腔鏡を併用した小開胸下の肺切除術（hybrid VATS）を適用しており手術の低侵襲化を進めています。一方、大学病院の役割として他施設で手術不能とされるような局所進行肺癌の外科治療にも積極的に取り組んでいます。このような症例においても、気管・気管支形成術や血管形成術を用いて、可能な限り肺機能を温存するよう努めています。縦隔腫瘍、胸壁腫瘍などの手術においても積極的に胸腔鏡を取り入れています。

完全胸腔鏡下肺切除術の手術風景。全員モニターを見ながら手術を行う。

肺移植

東北大学病院は、全国に９つの肺移植実施施設の一つに認定されており、2000年の本邦初となる脳死肺移植以来、2017年12月までに111例の肺移植（脳死肺移植：97例、生体肺移植：14例）を実施しました。肺移植後の５年生存率は約75%であり、世界的にみても非常に良好な成績が得られています。

肺移植の適応疾患は、特発性間質性肺炎、肺気腫、肺高血圧症、リンパ脈管筋腫症、気管支拡張症、造血幹細胞移植後肺障害などです。いずれの疾患においても、呼吸不全となり内科的治療ではその進行が抑制できない場合に肺移植の適応となります。呼吸不全が進行してベッド上安静を強いられていた方、人工呼吸管理がなされていた方の中にも肺移植によって社会復帰できたレシピエントがいますが、酸素吸入下に歩行可能な状態のうちに肺移植を行った方が回復も早く成績も良好です。



上：間質性肺炎症例のＸ線写真。呼吸不全に両側気胸を合併しベッドレストの状態であった。
下：肺移植後４年でのＸ線写真。酸素なしで社会復帰している。

診療体制

2012年４月から東西病棟16階に呼吸器センター（センター長：一ノ瀬正和 呼吸器内科長）が開設され、呼吸器外科と呼吸器内科が同じフロアで入院診療を行うこととなり、両科の連携による呼吸器疾患の集学的治療に一層力を注ぐことのできる体制となっております。当科では、2017年12現在８名の呼吸器外科専門医を擁しており、全国でもまれに見る充実したスタッフをそろえて診療を行っております。手術の前週には、科長以下スタッフ全員による術前カンファレンスを行って、患者さま一人一人の病状に応じた最善の治療をご提供できるよう心がけております。

ご紹介いただく際の留意事項

・当科では新患完全予約制を導入しています。ご紹介いただく際には、地域医療連携センターを通してご予約いただき、予約日時を患者さんにお伝えいただければ幸いです。
・肺移植に関わるご紹介、お問い合わせは、臓器移植医療部（022-717-7702）またはE-mail: aki-miki@umin.ac.jpまでお願いいたします。肺移植コーディネーターの秋場または担当医が対応いたします。

歯科診療科紹介

第２回東北大学病院歯科部門地域連携懇談会を開催しました

Dental Department

11月29日に東北大学病院歯科部門と歯学研究科の主催、宮城県歯科医師会と仙台歯科医師会の共催で、第二回東北大学病院歯科部門地域連携懇談会・情報交換会が開催されました。今年二回目となるこの会は、地域歯科医療を担う歯科医院の先生方と東北大学病院の歯科医師が、顔の見える密接な病診連携体制を更に推進するために、昨年度から引き続いての開催です。歯学研究科B1講義室は歯学研究科で一番大きな講義室ですが、夕刻７時からの開催であったにも関わらず、60名を越える地域歯科医療機関の先生方と大学の歯科医師合わせて140名以上が参加し、あふれる状態にまでになりました。本会では、高橋哲総括副病院長、佐々木啓一歯学研究科長のご挨拶の後、宮城県歯科医師会の細谷仁憲会長からお言葉をいただき、歯科部門との連携に大きく貢献していただいた地域歯科医療機関を代表して、宮内昭穂先生、懸田明弘先生、長谷剛史先生に感謝状を進呈しました。高橋総括副病院長を議長として大学病院歯科部門と地域歯科医師の連携方法に関して討論を進めた後に、歯周病科、歯科麻酔疼痛管理科、咬合修復科、顎顔面口腔再建治療部から診療内容の説明がありました。情報交換会では仙台歯科医師会の駒形守俊会長からもお言葉をいただき、更に活発な個別の討議が進んだ様です。東北大学病院歯科部門では、高橋総括副病院長の下、本会の議論を基に、新たな地域医療連携体制を大きく推進していきます。

中央診療施設紹介 / 薬剤部

内服抗がん薬を含むがん化学療法プロトコールに関する保険薬局との情報共有

Facility

近年、がん化学療法は抗がん薬の副作用を緩和するための支持療法も進歩し、入院せずに日常生活を続けながら外来で治療するケースが増えてきています。したがって、外来で抗がん薬治療を受けている患者さんの多くが病院で処方された内服抗がん薬や支持療法薬を保険薬局で受け取っています。安全で安心ながん化学療法の提供には、病院と保険薬局間の情報共有が重要であり、連携強化が求められています。当院では、平成29年７月より外来で内服抗がん薬を処方する際、院外処方箋にプロトコール番号等を印字し、併せて当院ホームページに該当するプロトコールに関する情報を掲載いたしました。保険薬局の薬剤師は、当院ホームページのがん化学療法プロトコール確認ページにアクセスすることで、該当するプロトコールの詳細な内容について閲覧可能になります（掲載された情報の閲覧には、当薬剤部から発行されたIDとパスワードが必要になります）。保険薬局の薬剤師は、これにより適切な服薬指導や副作用管理が可能になります。

これまでも薬剤部では保険薬局との情報共有を目的に、化学療法センターと共同で「がんの治療手帳」を作成し使用してきました。しかし、「がんの治療手帳」は化学療法センターで抗がん薬を点滴投与する患者さんにしか使用していないことから、化学療法センターを利用せず内服抗がん薬のみで治療している患者さんの情報共有は困難なものでした。今回、院外処方箋に印字されたプロトコール番号を利用し保険薬局と情報共有することで、より安全で質の高いがん化学療法が実施できると期待しています。今後も薬剤部では、がん化学療法における地域連携に取り組んでいきたいと考えます。

ホームページから閲覧可能なプロトコール情報